

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 出口 久浩

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-002	観光サイン設置事業	なし	B	「ごんの秋まつり」等で多数の観光客が訪れる岩滑エリアの歩行者誘導系補完サイン(4基)の木製支柱が腐食損傷したため、金属製案内板に付け替えることで、観光客が岩滑エリアを回遊する際の利便性を向上することができた。	現状維持	岩滑エリアに腐食損傷してしまっている木製案内板が残り10基あるため、令和3年度に4基、令和4年度に6基を金属製案内板に付け替えることで観光客の利便性向上を図る。 今後、JR半田駅前土地区画整理事業の進捗に応じて、必要なサインの整備を図っていく。
12-004	半田運河活性化推進事業	あり	D	令和元年度冬から引き続いて、新型コロナウイルスの影響によるイベント中止や、観光施設等の休館により、半田運河周辺観光入込客数は大幅に減少した。その一方で、3密を回避できるイベントとして、半田運河HOTORI brunchを2回実施し、コロナ禍においてもできる限りの運河周辺の魅力の発信と楽しさを提供した。また、半田運河の認知度向上を目指して、名古屋市内イベント(なやばし夜イチ)に出展し、魅力を発信することができた。	改善推進	来場者の集中が見込まれるイベント(HOTORI SAKABA、Canal Night等)については、今年度も新型コロナウイルス感染症が収束するまでは開催が容易ではないが、積極的な情報発信による認知度の向上を図りながら、時代に沿った誘客方法を検討し、半田運河の日常的なにぎわいの創出を図っていく。
12-005	観光振興事業	あり	D	新型コロナウイルスの影響により、一部の観光施設は休館し、多くの集客イベントが中止となったことで、年間の観光入込客数は目標値を達成できなかった。食の観光として新たに「尾州早ずし」の広報物(チラシ・リーフレット・のぼり・のれん等)を作成し、尾州早ずしの認知度を向上させることができた。また、市内飲食店・土産店等をお得に回遊することができる「めぐりんマップ」や「すしぼん」は、コロナ禍においても密を避ける施策として展開した。今後は、このような日常的なにぎわいづくりを推進していく必要がある。	改善推進	新型コロナウイルス感染症の影響により、当面は一極集中的な集客イベントは開催できないが、感染症の収束状況を見極めながら、寿司をPRする食の観光や市内飲食店を巡ってもらう取り組み等を進めていく。新たな取り組みとしては、半田市観光協会HP内に食の観光ウェブサイト構築することや、SNSを活用することでデジタルでのPR等を強化していく。
12-006	半田市観光協会支援事業	あり	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、市内への来訪者が大きく減少し、アイプラザ半田観光案内所及び知多半田駅前観光案内所(クラシティ内)の利用者数も、対前年度比でそれぞれ約66%、約63%に減少した。こうした状況の中においても、令和2年度は、PR動画のオンライン配信、Googleストリートビューの活用、SNSのハッシュタグキャンペーン、ホームページの拡充など、アフターコロナを見据えたデジタルによる観光情報(市内観光スポット、イベント、飲食店等)の発信を強化した。	改善推進	令和3年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けると見込まれるが、アフターコロナを見据えた、SNSやホームページ、メディア、PRキャンペーンを始めとする多様な広報手段を活用した情報発信により、将来の観光客の誘客につなげる。知多半田駅前観光案内所については、利用に係る需要を踏まえて、クラシティ1階での有人の案内所からクラシティ3階における観光情報コーナー設置(サイネージ・案内看板・パンフレット設置等)へと形態を変更し、より効果的・効率的な観光案内を行っていく。
12-007	アイプラザ半田管理運営事業	あり	D	コロナ禍における、令和2年3月4日～5月31日までの臨時休館や、貸館利用人数制限、開館時間の短縮等により、利用者数等は減少したが、談話室における「映画GON」や「半田運河」のPRコーナー(パネル展示等)を設置するなど、来館者に対する観光PRの強化を図った。また、閉館後の消毒作業など、新型コロナウイルス感染防止対策を適切に実施した。	改善推進	令和3年度については、講堂がコロナワクチン接種会場となるなど、一定の利用が見込まれる。引き続き、半田観光の魅力をPRする企画展を開催するなど、観光情報の発信強化と、観光立寄者数の増加を図る他、貸館利用者数を増加させるためのPR活動、感染防止対策を徹底しながらの施設運営を行っていく。
12-008	半田赤レンガ建物管理運営事業	なし	D	新型コロナウイルス感染拡大の影響により4、5月と閉館していたことに加え、赤レンガマルシェやカブトビールフェスタ、ドイツフェスティバルなどの集客力のある大型イベントが実施できず、成果指標である年間来場者数は大きく減少した。一方で、アテンドデスクを設置し、常設展示室への誘導、館内・市内の情報発信基地として来館者の多様なニーズに対応するとともに、カフェメニューのリニューアルや半田赤レンガ建物オリジナル商品を開発するなど、おもてなしの強化を図った。	改善推進	イベントの実施については、新型コロナウイルス感染拡大の状況により大きく影響を受けやすいため、イベント以外の日常的な集客を延ばすため、集客力のある展示会の誘致など、貸館の営業に力を入れていく。また、カフェについては、客層や好みに沿ったメニューの開発や好評である赤レンガBBQの期間を広げ、市民の憩いの場としての利用の促進を図っていく。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-009	半六庭園管理運営事業	なし	D	庭園内の公衆トイレの維持管理、緑地管理等を適切に実施することで、半田運河を訪れた観光客・市民の憩いの場を提供することができた。 目標値である来園者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により周辺の観光施設、庭園内飲食店が休業したことや運河周辺でのイベントが中止となったことから、大幅に減少し、前年度を下回ることとなった。感染症が収束しない限りは、根本的な来園者の増加は難しい状況である。	現状維持	来園者のおもてなし・憩いの場として引き続き快適な環境の維持に努める。また開園から6年が経過し、工作物等に劣化・損傷が発生している個所もあるため、必要に応じて修繕を実施していく。
課等長	1次評価(令和2年度の総括評価)					
D	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による全国的な人の移動の停滞に併せて、市内観光施設の閉館、集客イベントの中止等も加わり、観光入込客数が大きく減少してしまった。本市の観光振興は、半田赤レンガ建物、MIM、新美南吉記念館等の観光集客施設や、一極集中の集客イベントに依存する割合が高く、コロナ禍においてはそれが弱点として露呈した形となった。めぐりんチケット(MAP)やすしぼんによる市内店舗周遊企画等のキャンペーンは、密を避ける施策として展開したが、今後は、このような日常的、分散型の誘客を強化していく必要がある。					
部等長	2次評価(令和2年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
D	観光サイン設置事業については観光客の利便性や回遊性の向上のため、岩滑エリアに4基設置できた。観光振興事業を始めとした各種観光イベントがコロナウイルス感染症拡大防止のため、規模縮小や中止となり目標値の達成には至らなかった。今後はコロナウイルス感染症対策を行いながら、アフターコロナを見据えた新しい観光振興スタイルを模索し、観光客入込客数の増加に努めること。 また、当初の計画になかった、コロナウイルス感染症対策においてダメージを受けた飲食事業者に対し、半田市独自の支援策「テイクアウト促進事業」を短期間で制度設計し支援を行うことができた。また、国のGoToトラベル事業等、突然発生した事業について迅速に対応することができた。					